

石 二 小 だ よ り

第62号 平成29年2月13日(月)発行 文責：鈴木

【電話】0244-22-2724 【ホームページ】http://www.minamisoma.gr.fks.ed.jp/?page_id=145

平成28年度重点目標「考えをつたえ合おう」

長縄で何回跳べたかな？



児童会の体育委員会が中心になって、学級別の長縄跳び記録会を行いました。これに向けて、各学級では体育の授業ばかりでなく、朝や休み時間なども利用して練習してきました。回っている縄に入るタイミングが難しいので、みんなで声を掛け合ったり背中を押してあげたりと、それぞれの学級で協力しながら1回でも多く跳べるように頑張りました。7日(火)には中学年が、8日(水)には低学年が、9日(木)には高学年が、3分間で何回跳べるかチャレンジしました。さすがに高学年ブロックの縄を回す人と跳ぶ人のスピードには、迫力がありました。終了後には、体育委員会から記録賞が授与されました。それぞれのブロックのトップの記録は次の通りです。【低学年ブロック(2/8実施)：1年1組…81回、中学年ブロック(2/7実施)：4年2組…216回、高学年ブロック(2/9実施)：6年1組…294回】

県民の歌制定50周年

皆さんは「福島県民の歌」をご存じですか。テレビで「県政ニュース」などが放送される時にBGMとして流れている曲で、「しゃくなげ匂う山並みに～」の歌詞で始まる歌です。この歌は昭和42年(1967年)に、豊かな資源と美しい自然に恵まれた福島県の発展を象徴し、明るく住みよい県土を県民の皆さんと歌い上げようという願いが込められて制定され、



この2月11日で制定50周年を迎えます。そこで、福島県ではこの趣旨を子どもたちに周知し、郷土への愛着を醸成してより一層親んでもらうために、2月1日(水)から15日(水)までの期間中、県内の学校で放送等を通して曲を流しています。本校でも、昼の放送で流しています。なお、パソコン等で「福島県民の歌」と検索すると音源のURLが表示されますので、関心のある方はぜひ聴いてみてください。

《裏面もご覧ください》

「ふわふわ言葉」と「ちくちく言葉」

皆さんは、「ふわふわ言葉」と「ちくちく言葉」という言葉を聞いたことがありますか。「ふわふわ言葉」とは、言われるとうれしくなる、心が温くなる言葉です。反対に「ちくちく言葉」とは、言われると傷つく、嫌な気持ちになる言葉です。下に例をいくつか挙げてみます。

ふわふわ言葉	ちくちく言葉
ありがとう ごめんなさい すみません こんにちは おはよう さようなら 大丈夫? どうしたの? 一緒に遊ぼう 仲良くしよう よろしくね すごいね やったね がんばって かわいいね よかったね	死ね 殺すぞ 消えろ うせろ あほ ばか カス ぼけ むかつく うざい きもい くさい きたない でぶ プス ちび たこ のろま 最低 絶交 黙れ 目障りだ くそ野郎 頭悪い ばい菌 無視

最近では、子どもがよく見るバラエティー番組の中でも、出演している人たちの会話の中に「ちくちく言葉」のような心ない言葉を耳にします。子どもたちが大好きなゲームなどでも、アクション系やバイオレンス系のものに「死ね」「消えろ」などの言葉が飛び交います。しかし、テレビやゲームの世界と、私たちの毎日の日常生活では違うのだということを認識する必要があります。皆さんのご家庭ではどうでしょうか。本校でも子どもたちの会話の中に、このような「ちくちく言葉」が聞こえてくる場合があります。また、何かトラブルを起こして教職員から注意を受けた時に、子どもから「ちくちく言葉」が返ってくる場合があります。言っている方はどんな気持ちなのでしょう。とても残念に思います。

言葉遣いが好ましくない子どもは、周囲の人が「うざい」「消えろ」などといった言葉を連発している環境で育ったことが原因でそうになってしまうケースと、外からの影響で悪い言葉を覚え、その言葉を発しても何も注意されないまま育ったためにそうになってしまうケースがあると言われていています。子どもの頃から吐き捨てるような攻撃的な言葉を遣っていると、それがいつしか口癖になり、将来に渡って悪い印象や評価を受けることにもつながり、本人にとってはとてもマイナスなことです。そんな言葉を遣いながら育った子どもは、将来どんな大人になるのでしょうか。テレビが悪い、ゲームが悪い、友だちが悪いなどと、周囲にその原因を押し付けているだけでは、何の解決にもなりません。私たち大人がまず好ましい言葉遣いを心がけ、子どもたちの間でも「ふわふわ言葉」が多く交わされるようになると、みんなが穏やかな優しい気持ちで生活できると思います。

